



クビアカツヤカミキリにご注意ください！

近年、もも・うめ・すももなどのバラ科植物を食害して、**樹を衰弱・枯死させる害虫「クビアカツヤカミキリ」**（以下『クビアカ』）が各地の果樹園で重大な被害を及ぼしています。クビアカは、国内では平成24年に、大阪府では平成27年に初めて発生が確認され、泉州管内においても生息域が拡大しています。

<捕殺の徹底>

クビアカの成虫は、**6月から8月上旬にかけて発生します。これらの捕殺が非常に有効な防除手段となるため、発生を確認したら捕殺を徹底してください。**

成虫は、土の上で踏むだけでは潰れにくいので、固い地面で踏みつけるか、道具でたたくなどして殺虫してください。また、成虫の発生時期に、**殺虫剤を散布すること**も効果的です。



約4 cm (成虫)
ジャコウのような、独特な香りがします



クビアカのフラス

<発見のポイント>

クビアカの幼虫が3月下旬から10月頃に排出する、**中華麺からうどん状の太さの排出物（フラスと呼ばれる、木くず等の混合物）**です。フラスを見かけた場合は、排出している穴を探し、穴からフラスを取り除いて、穴の中にいる幼虫を針金等で刺殺するか、穴に噴射するタイプの薬剤（ロビンフッドなど）を**注入**してください。

クビアカは繁殖能力が非常に高く、**メス成虫1個体で生涯平均約350個、最大で750個産卵する能力**があるといわれています。クビアカの被害を拡大させないためにも、**早期発見・早期防除**にご協力ください。

なお、**クビアカは特定外来生物に指定されており、法律で移動・飼育が禁止**されています。果樹園で発生を確認された場合は、農の普及課までご連絡ください。

また、クビアカに使用できる薬剤や、防除方法については、下記ホームページをご覧ください。
○技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」（右記QRコードからもご覧いただけます）
http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii_manual_R3.3.pdf



農林漁業者と食品事業者との交流会を開催しました

泉州管内には、自家農林水産物を活用した加工品の製造や、販路開拓に取り組む農林漁業者が多くいます。

農の普及課では、農林漁業者が地元農林水産物や自身の魅力をPRし、販路開拓に活かせる情報伝達力を身につけるとともに、食品事業者と情報交換するための交流会を定期的に行っています。今回は令和3年3月に開催した交流会の内容をご紹介します。

第1部では、外部講師による、高校生と食品事業者のコラボによる商品開発や、コロナ禍で始めた「宅配×オンライン料理教室」の事例紹介と、農林漁業者による自己PRを行いました。続いて第2部では、フリー商談の時間を設け、参加者同士が自由に情報交換を行いました。

今回の交流会によって、今後の取引や事業展開に繋がるような出会いの場を提供することができました。

今年度も11月18日（木）に岸和田市立浪切ホールで開催しますので、ご関心のある方は農の普及課までお問い合わせください。（右記QRコードからも詳細をご確認いただけます。）



▲ 第1部 講演の様子

第2部 フリー商談の様子 ▼



受賞おめでとうございます！令和3年度憲法記念日知事表彰

岡田茂さん（岬町）
（写真左）



◀ 岡田さんが栽培した胡蝶蘭

あなたは大丈夫？ 『農薬の適正使用』

農薬の使用に際しては、次のことに注意しましょう！

- ☑「ラベルを確認する」
- ☑「使用履歴を記録する」
- ☑「使用後は噴霧器を洗浄する」
- ☑「周辺への飛散に注意する」

